

ARDS 症例における高分解能 CT (HRCT) 上のびまん性肺胞傷害 (DAD) パターンの臨床的意義の検討

1. 研究の対象

当院にて入院加療を行った Berlin 定義を満たす ARDS 症例を対象とする

2. 研究目的・方法

目的：今回 ARDS 診断時の HRCT 所見上の DAD パターンの有無を評価し、臨床指標との関連を検討することを目的としたい。HRCT 所見上の DAD パターンの臨床的意義について、180 日死亡率を第一アウトカムとし、第 2 アウトカムとして、人工呼吸離脱日数、臓器不全フリーの日数を指標として評価する。

方法：高分解能 CT (HRCT) による評価研究 (HRCT study: 当院倫理審査 No. 238 号) による前向き集積症例のデータを retrospective に解析する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

臨床的予後因子 9 項目：年齢、APACHE II スコア (全身状態の重症度)、SOFA スコア (多臓器不全の程度)、McCabe スコア (基礎疾患の予後)、肝硬変の有無、原因病態が直接肺損傷、敗血症の有無、 PaO_2/FiO_2 、HRCT 上の線維増殖性病変の程度 (HRCT スコア)

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

済生会熊本病院

研究責任者：呼吸器内科部長 一門 和哉

TEL: 096-351-8000 (代)

以上